

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
第3期丹波篠山市教育振興基本計画策定委員会第1回会議
- 2 開催日時  
令和元年6月5日（水） 13時30分から15時30分まで
- 3 開催場所  
丹波篠山市役所本庁舎4階401・402会議室
- 4 会議に出席した者の氏名（敬称略）
  - (1)委員 當山 清実（教育に識見のある者）、中西 健治（教育に識見のある者）  
足立 眞理子（教育に識見のある者）、向井 祥隆（社会教育関係者）  
山本 晴朗（社会教育関係者）、畑 早苗（学校教育関係者）  
西嶋 睦美（学校教育関係者）、津瀬 雅之（学校教育関係者）  
中道 博（学校教育関係者）  
※奥田 格（学校教育関係者）は欠席
  - (2)事務局 稲山 悟、酒井 宏、小林 康弘、田中 真紀子、河野 元秀
  - (3)その他 前川 修哉
- 5 傍聴人の数  
0名
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別  
公開
- 7 非公開の理由
- 8 会議資料の名称
  - (1) 次第
  - (2) 諮問「丹波篠山市教育振興基本計画案策定にかかる提言について」 資料1
  - (3) 丹波篠山市教育振興基本計画策定について 資料2
  - (4) 第2期篠山きらめき教育プランの検証
  - (5) 第2期篠山きらめき教育プラン(概要版)
  - (6) 第2期篠山きらめき教育プラン
- 9 審議の概要  
別紙のとおり

審議の概要

発言者	審議内容および発言内容
	<p>1 開会 小林教育総務課長から諸説明</p> <p>2 委員委嘱 前川教育長より各委員に委嘱状を交付</p> <p>3 あいさつ 前川教育長あいさつ</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 委員長及び副委員長選出 委員の互選により下記のとおり選出 委員長：當山 清実 氏 副委員長：向井 祥隆 氏 (以降の議事については、當山委員長が進行)</p> <p>6 諮問 (1)「丹波篠山市教育振興基本計画の策定にかかる提言について」</p> <p>7 協議事項 (1) 丹波篠山市教育振興基本計画の策定について</p>
事務局	資料に基づき事務局より説明。
委員	資料2の5ページについて、グローバル化が進み快適な生活ができるようになってきている反面、地域の関わりが希薄となっている現状を計画策定の背景・趣旨に盛り込むことでより内容が理解しやすくなるのではないかと。
事務局	国の計画でも同様に技術革新の反面、人間関係の希薄を危惧する内容が取り上げられている。委員の意見を参考に取り入れたい。
委員	資料2の6ページの3「計画の期間」について、表中の記載が、県はひょうご教育創造プランとなっているため、丹波篠山市も合わせるためにきらめき教育プランに変更すべきではないかと。
事務局	対応する。
委員	資料2の5ページ1「計画策定の背景・趣旨」について、第1、2段落は何を参照しているのか。
事務局	第1段落については、第1、2期の篠山市教育振興基本計画をまとめたもの、また県の計画を参酌し記載している。

	<p>第2段落については、県、国の計画を引用し記載している。 今後協議を進めていく中で、内容の検討も進めていく。構成については、内容を踏まえて決定したい。</p>
委員	<p>資料2の5ページの1「計画策定の背景・趣旨」について、「人生100年計画」は市民に浸透しているか不明である。理解してもらえるか。</p>
委員	<p>マスコミが先導して使用しており、これから浸透してくると思う。目標としての表記であるのでこの表現で良いと考える。</p>
委員	<p>資料5の6ページの計画の性格について、読みづらい表記となっている。</p>
事務局	<p>指摘のとおりである。修正する。</p>
	<p>(2) 第2期教育プランの検証結果と丹波篠山の教育に期待すること</p>
事務局	<p>資料に基づき事務局より説明。</p>
委員	<p>1ページ内の表記について、今年度からキャリアノートからキャリアパスポートに変更されている。</p>
事務局	<p>確認し、修正する。</p>
委員	<p>14ページのインターネット社会への対応内で、スクールロイヤーの表記がないがよいのか。</p>
事務局	<p>令和元年度から取り組む事業である。今後の方向性として表記をする。</p>
委員	<p>新しい時代や縮小社会に対応したプラン作りが必要であると考え</p>
	<p>る。成果指標についても、人口が減少している中で参加人数の増を目標とするのは難しさがある。質を求めた成果指標づくりが必要である。</p>
事務局	<p>第2期の成果に対する検証であるため、量的な表記がみられるが、第3期の成果指標設定については、質的な設定を含めて事務局でも十分検討する予定である。</p>
委員	<p>市内在住の方と市外から移住してきた方が交流でき、地域が発展</p>
	<p>する取組などを計画に盛り込むべきである。第2章の基本方向6「文化・自然遺産を生かした教育・まちづくりの推進」内でとりあげるの</p>
事務局	<p>が良いのではないかと検討する。</p>
委員	<p>17ページ内の国際理解教育プログラム内に記載がある数値の参照元を</p>
	<p>教えてほしい。小学生、大人向けのプログラムがあるが、数</p>

事務局	値はどちらをカウントしたものであるのか。 担当課にて確認する。
委員	日本語教室・学習支援教室の充実について、外国人市民に対しての日本語教育か、教室で講師をするボランティアスタッフに対しての生涯学習（社会教育）なのか不明である。
事務局	担当課にて確認する。
委員	グローバル化に適応した教育の推進で英語教育が取り上げられているが、まず自分の思いを表現できるコミュニケーション能力を養う必要があるように思う。
事務局	検討する。
委員	英語がメインで取り上げられているが、他言語も重要である。手話も言語として扱っていくべきではないか。
委員長	事務局での検討を依頼する。
委員	1 ページの指標について、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の表現ではなく、「将来の夢や目標について考えたことがある児童生徒の割合」の表記に変えるのが良いのではないか。
事務局	検討する。
委員	グローバル化に対応することも重要だが、自分の生まれ育った日本の文化、丹波篠山の文化を理解し、誇りを持つことが第一であると考えている。これは子どもだけに限らず、大人も同様である。
委員	5 ページ幼保一体化の推進と就学前教育の充実について、整備した、実施したという表記になっているが、人員配置の面では課題がある。
事務局	事実であるため、記述を加えるよう検討する。
	8 次回の策定委員会日程
	9 閉会